

琵琶湖上に浮かぶ国内唯一の内水面有人島で、住む人の生活の知恵や豊かな自然が訪れる人の心を癒す『海なし県の離島』のキ

ヤッチコピーでのアピールが功を奏し来島者が急増。島民の生活道路で観光客の島内散策コースの一つにもなっている島の玄関口・沖島(近江八幡市)。

『海なし県の離島』のキ



感謝状を受け取った岸田部長と森田自治会長(左から2人目)ら

奥井総建に感謝状

森田自治会長 支援に深く感謝

畔のコース(約3km)に架かる橋(8本)の改修工事に地元・沖島町自治会が市の『里山再生整備事業補助金』の採択を得て19年度から3カ年計画で取り組んでいます。この取り組みに、「奥井に頼めばなんとかなる」の地元建設企業・奥井総建(奥井敦史代表・近江八幡市島町1-634)が企業ボランティアとして参加。去る20日初年度事業(2本の橋の改修)が完了し完成式と



橋改修作業風景



渡り初めを行なう森田会長
(先頭)ら

彦根市・野田沼地区の農業排水路改修計画



改修工事が計画されている「八坂放水路」

彦根市の南部域に位置する野田沼地区では、老朽化に伴う農業排水路の改修工事が県営事業で計画されており、令和4年度(2022年度)の新規事業採択における新年度から事業計画の策定業務や測量・土質調査

策定・測量費など予算化 新規県営事業 22年度から着手

国庫補助の内示を受け、前倒しで今年度の補正予算(2月補正の追加分)で測量および土質調査費1,000万円を新規に予算化した。

東農業農村振興事務所田園

が、地元の彦根市の主動でスタートする。彦根市の新年度当初予算には、農業排水路管理事業には、農業排水路管理事業で事業認可に向けた計画策定業務委託費2,400万円が新規に予算計上された。さらに、計画策定に係わる

彦根市・野田沼地区の農業排水路改修計画

20年度から着手

滋賀産業新聞

発行所
株式会社SIN
「地方建設専門紙の会」会員
www.s-sangyo.co.jp/

本社

〒520-0801
大津市におの浜1-1-18
滋賀県建設会館2F
TEL(077)526-3630
FAX(077)524-9660
購読料(1ヶ月)9,600円(税抜き)
(1部)680円(税抜き)

購読・見本紙の申し込みは
 0120-232838
フリーダイヤル

勤労者退職金共済機構建退共

建設労働者のための国の制度

滋賀県支部
大津市におの浜一丁目一番十八号
電話○七七(五二三)三二三三二代

きょうの紙面

◇琵琶湖河川は南郷地区河道掘削工事など2件について、一般競争入札できよう公示する。(2面)
◇甲賀市など人事異動内容と入札情報、入札結果。(3~5面)
◇太陽運輸は竜王町で倉庫建設用地の開発を計画、岡山建設の施工で4月に着工する。(6面)

田沼地区の農業排水路改修事業(彦根市呂町・日夏町・須越町地先)は、今年5月末までの工期で現在整備中(安食川2期地区排水路第1工事/施工・谷庄建設㈱)の安食川の分流施設「八坂放水路」を、経年劣化による改修整備するもの。

八坂放水路は、一級河川

と一緒作業をしていただけた。15年前に私たち地元住民で整備した道路だが、高齢化のため企業の支援がなければ老朽化した橋の改修は不可能だった」と深く感謝した。

沖島は、対岸・堀切新港から沖合約1・5kmにある周囲約6・8km、面積約1・53平方kmの琵琶湖最大の島で、117世帯250人が暮らす。島民のほとんどが暮らす。島民のほとんどが漁業に携わり、市内への交通手段はもちろん船。通学、通勤用に定期便が運行されている。

長命寺山や鈴鹿山系、比良山系の美しい眺望は島ならでは。伝承によれば、保元・平治の乱に敗れた清和源氏の流れを汲む武者が島を開拓し、定住したのが島の始まりと伝えられている。

沖島の弁財天巖島神社は、島民の間では「弁天さん」と呼ばれる。通船から赤い鳥居が見え来島者を出迎える。『ご縁の神様』としてSNSで話題になり、他府県からも参詣者が増えているという。



私たち 人ととのつながりを大切にすること
共に育ち 共に繁栄することを使命とします